



# 36

通巻 第2740号  
2016年4月1日発行

1960年創立  
昭和35年2月5日



第2510地区  
重点課題

●2015-2016年度 IRテーマ

世界へのプレゼントになろう

2015-16年度IR会長

K. R. ラビンドラン

- ①クラブ戦略計画への支援
- ②新会員のフォロー支援
- ③クラブサポート強化

●本日 4月1日(金)のプログラム

◎「多様性受容力について」

スピーカー:秋野恵美子小樽保健所所長

●来週 4月8日(金)のプログラム

◎職場訪問例会

かま栄本社(堺町)点鐘12:30

●再来週 4月15日(金)のプログラム

◎「人工減少時代のまちづくり」

片桐 由喜 教授(小樽商大教授)

第36回例会報告

2015~2016年度 国際ロータリー第2510地区 第6グループ

## インターシティ・ミーティング

ロータリーの夢、クラブの未来

みんなで考えよう 我がクラブの未来

### 歓迎の挨拶

廣部会長

今年度、第6グループ、インターシティ・ミーティング、主管クラブを代表しまして、歓迎のご挨拶を申し上げます。

本日は、嵯峨義輝ガバナー、熊澤隆樹パストガバナー、そして、基調講演・講師としてお迎えしました、羽部大仁パストガバナー、また地区内外よりの、ご来賓の皆様、おいでいただき、誠にありがとうございます。

そして、何よりも、第6グループ・7クラブの、大勢のお仲間にご登録、ご出席いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

私共、小樽南ロータリークラブ、会員、一同、齋田ガバナー補佐の思い描くIMを、実行に移すべく、年初より、準備を進めてまいりました。

雪に閉ざされた、長い冬から、やわらかな、陽光あふれる季節へと、移り変わる、今日、この時に、お蔭をもちまして、無事、開催のはこびとなりました。グループ内、7クラブをはじめとする、多くの方々の多大なるご協力に、あらためまして、お礼申し上げます。

ご存じのように、手続要覧の、IMに関する記載は、標準クラブ定款の出席規定に、あるだけでござ



います。ですが、近隣のクラブメンバーが、このように一堂に会し、共通のテーマで語りあい、親睦の輪を広げる、その意義には大きなものがございます。どうか、この会が、皆様にとりまして、楽しく、有意義なものとなりますことを、お祈り申し上げ、歓迎のご挨拶とさせていただきます。

### ようこそ I・Mへ

第6グループガバナー補佐

齋田 義孝

今日は第6グループのインターシティ・ミーティングに、参加していただき有難うございます。ご来賓の嵯峨G、熊澤PG、羽部PG、地区役員の皆様、そして特別参加 御茶の水RC 土居様 3月末のご多忙の中ご出席いただき感謝申し上げます。

インターシティミーティングは、年一度第6グループの7クラブが一同に会し今ロータリーが直面している問題や各クラブの抱えている悩みや課題をテーマに沿って意見交換し、研鑽を深める場です。また、懇親の場を通して友情・親睦を深め合う機会でもあります。

今年度 嵯峨ガバナーは、地区の第一目標として「会員増強と維持率の向上」をあげられました。これは単に、クラブの会員数を維持し、増やすという



事ではなく将来に向かってクラブ活動をより充実し、発展させていくためには、クラブに新たな血を入れ、その補強によってクラブの更なる活力をつくりあげて欲しいという願いからだ、私なりに受け止め、第6グループの今年度のテーマとしても「会員増強」とさせていただきます。

今私達の地域を取り巻く環境は「少子高齢化社会」「人口減少問題」「地域経済の低迷」といった深刻な課題を抱えています。ロータリーも、まさにその中にあります。こういった地域課題の中であって“ロータリーは何ができるか、何をしていたら良いのか”ロータリー活動が問われてる時だと思います。第6グループ7クラブがそれぞれ未来に向けて、自分達のロータリー活動をどうつくりあげていけば良いのか、クラブ内で大いに議論していく時だと考えました。みんなで元気なクラブをつくり上げる。それが、活力あるロータリー活動につながっていく、考えます。その意味で、今回の第6グループのI・Mテーマを「ロータリーのクラブの未来—みんなで考えよう 我がクラブの未来」と、させていただきます。

7クラブの皆様には、それぞれ未来へ向けてのクラブづくりを大いに語り合ってもらい、それをクラブの未来メッセージとして発表していただく今回は、そんなI・Mを企画いたしました。

I・Mの前段、羽部パストガバナーに「ロータリーへの思いとロータリーにかける夢」と題して、基調講演をいただき羽部パストガバナーがロータリアンとして蓄積されてきた思いを存分に語っていただこうと思っています。そして、締めくくりとして嵯峨ガバナーより本日の所感をいただくと共にガバナーのロータリーへの思いとロータリー観をお聞かせ願えれば今日のI・Mは、参加された皆様にとって充分意義ある会合になると信じます。

**“ENJOY ROTARY”** そんなロータリーテーマを掲げたRI会長がおられました。ロータリーをエンジョイし、楽しく感じるロータリーであってこそ、活力ある奉仕活動が生まれ、てくると思います。

そんなロータリー活動を目指して、限られたI・



Mの時間ですが、ロータリーの未来、ロータリー活動、クラブ活動の未来を共に考えてみたいと思います。

よろしくお願いいたします。

基調講演

## ロータリーへの思いと ロータリーにかける夢

羽部 大仁 パストガバナー  
(札幌幌南RC)



私はロータリーに入会したのは、父がチャーターメンバーで出来たクラブが札幌幌南ロータリークラブで昨年50周年を迎えました。

そんなご縁で入会したのが29歳くらいでした。その時にロータリークラブは出席が本望であり、欠席してはいけないと言われてましたので、出席を第一にロータリアンを続けてきたのが、今日の私です。ただお坊さんだったため、緊急のピンチヒッターでよく卓話をさせられました。

昨年2014年度—15年度にガバナーを務めさせていただきました。この第6グループの各グループにお邪魔させていただき、大変お世話になりました。

この第6グループには7クラブがあって、それぞれが素晴らしい活動をしているのは良く存じています。

全部のクラブが同じである必要は全くありません。会員数が少ないクラブはそれなりに色々知恵を出し合って、ロータリー活動を真摯に取り組んでいる様子に感服しました。それがロータリーで良いと思っています。

その中で私がお願いしてきたことが1つありまして、それが会員増強でした。女性会員のいないクラブには是非女性会員を入会させてくださいということです。今年度札幌クラブも2名の女性会員が入会いたしました。うちのクラブ全体では71名のメンバーがいるのですが、13名女性がいます。女性の数では2510地区では一番多くなっています。

昔、私がロータリーに入った頃、卓話の中で「I Serve」「We Serve」について話された先輩がいらっしゃいました。その時にどこは違うのかなと思いました。

「I Serve」は自分がロータリアンとして研修する。つまり自分の職業を通じて奉仕するとういのはなんとなく分かりましたが、クラブは一人じゃないのでクラブで奉仕するということは「We Serve」になるのではと私は思っていました。ただ、「We Serve」ということはあまり言わないですね。

ロータリーは「I Serve」だけで今まで来てしまった感がありますが、私は若干違うような気がします。ロータリークラブの最終目的は「望むは世界の久遠の平和」とあるように平和になったらロータリーク

ラブの目的は達成されるのではと思います。「We Serve」はそこに目的があるのではと思います。

ヒントのひとつとして、仏教には「法輪運動」というのがあります。輪が広がっていくことです。

ロータリー運動と似ているなと思います。望むところも似ている、世界の平和ということではないでしょうか。「奉仕の理想に集いし友よ」というのがロータリークラブの一番肝心の所だと思います。

昨年1月にサンディエゴの国際協議会に参加してまいりました。その入り口に「Enter to learn」「入って学べ」と書いてあり、出口では「Go force to serve」「出でて奉仕せよ」と書いてありました。これがとても大事な事、すなわち例会の出席により我々が多くの事を学んでいくということがとても大事な事だと言われています。

皆さんも例会に参加して、色々人生を磨いていただくことで素晴らしい奉仕が出来るのではと思います。その究極にあるのが夢だと思います。

1998年-99年のロータリーのテーマは「ロータリーの夢を追いつつ続けよう」でした。夢という言葉は大変良い言葉だと思います。

そしてもうひとつが2008年-9年は「夢を形に」というテーマでした。その時のイ・トンゴン会長が良く引用したのがポリオプラスの事でした。

ロータリーが四半世紀をかけて取り組んできたポリオ撲滅の運動がもうすぐのところまで来ています。これを達成すると大変なことだそうです。

一人でやると大変かもしれませんが、みんなでやって夢を実現しようではありませんか。

皆さん「恩」という字をイメージしてください。

大の字に四角く囲んでいて、これは困という時です。その下に心があります。恩というのを分からないで居るのが多いそうです。



例えば空気、太陽、水など自然界からいただいている恩。恩師の恩などですが、一番私が感じるのが先祖や親からいただいた恩を先ず知る事、仏教では知恩といえます。

恩には必ずもうひとつ熟語がついてきます。知恩なら報徳などです。親や先祖からの恩に報いようということでもとても大切なことだと思います。

ロータリーを地域の人に知って貰うということも大事な事だと思います。

皆さんもロータリーはこんなことをしているんだよということを地域の人に伝えてください。

最後にロータリーは楽しい例会という事が重要だと思います。

楽しい例会を開くことで、まわりの人もロータリーに興味を持ち、ロータリークラブに参加してくれる人も増え、ロータリーの会員増強にも繋がるのではないのでしょうか？

「世界の平和」そして「楽しい例会」、これがまさに奉仕と親睦の良いバランスということをこれからも皆さんのクラブに実践していただきたいと期待しております。

## 各クラブ発表

(発表はロータリー創立順)




- |         |                          |            |
|---------|--------------------------|------------|
| ●小樽RC   | 「小樽クラブの未来を見据えて」          | 末 永 通 会員   |
| ●小樽南RC  | 「夢を大切に」                  | 松 浦 光 紀 会員 |
| ●余市RC   | 「余市ロータリークラブの未来」          | 林 和 秀 会員   |
| ●岩内RC   | 「20年前の過去、現在、そして20年後の未来へ」 | 成 田 賢 一 会員 |
| ●倶知安RC  | 「10年後、20年後の倶知安Cのあり方」     | 長 尾 靖 友 会員 |
| ●蘭越RC   | 「蘭越ロータリークラブの未来」          | 志比川 武 会員   |
| ●小樽銭函RC | 「クラブの夢・未来」               | 上 村 百合子 会員 |

■熊澤パストガバナー、羽部パストガバナー、最後に嵯峨ガバナーより ご講評を戴きました。(詳細につきましては後日 CDにて纏めさせていただきます)



**「IMの一日」**

**Rotary** 

Rotary International. District No.2510  
INTERCITY MEETING 2015-2016

